

しおんだより VOL.62



西成区は日本でも有数の結核蔓延地域です…

スタジオジブリのアニメ映画「となりのトトロ」には、サツキとメイのお母さんが入院している七国山病院という病院が出てきます。モデルは、東京都村山市の結核療養所だと言われていますが、我が国では結核は戦前、戦中、戦後を通じて非常に一般的な疾患で、このような療養所が大阪にもいくつも作られました。

毎日の医療、看護、介護に役立つ実践的な知識を専門家の先生から直接学ぶことができました。

ただ、ストレプトマイシンという薬が開発されて以後、結核の治療は格段に進歩し、戦後は日本人の死因第一位だった結核も、我が国ではほとんど見られなくなりました。しかし、残念ながら、といいますか、大阪市西成区では結核はまだ現役（？）の病気です。どれだけ結核の患者さんが罹患しているのかということを罹患率という数字で表しますが、2023年の厚生労働省の調査によれば、日本全国で8.1であるのが、大阪市内では18.3、そして、西成区に限っては78.5と、今も流行が続く東南アジアやアフリカと変わらないような状況です。

なんとなく体調が悪いとか、発熱で肺炎かという症状で搬送されてきた患者さんが結核だったという話は、当院でも珍しいことではありません。そこで、先日、大阪はびきの医療センター感染症内科の永井崇之先生に、結核の基礎知識や感染対策、診断や治療について当院の会議室で講義をしていただきました。終業後でしたが、沢山の職員が参加し、恐れすぎることはないが、きちんと対応することが必要ということを学びました。

実は、35年ぶりぐらいの再会でした

ところで、この企画は、大阪はびきの医療センター院長をおつとめだった当院太田三徳呼吸器科部長が、当院に赴任された後、やはり、結核症例が多いことをご覧になって、企画されたモノです。

「専門家を呼んで、講演会してもらうね」ということで、どうぞよろしくお願ひしますとなつたのですが、実際に講師の名前を聞いて、私が驚くことになりました。

というのも、今回来て頂いた永井先生は、私の中学/高校（大阪星光学院）の同級生で、6年間、同じ学び舎で過ごしたことがあったからです。進んだ大学は異なりますが、ともに医師になり、大阪府立病院機構で働いているという風の噂はきいていたのですが、まさか再会するとは…。夜中奇遇なものもあるのですね！



講師の永井先生と私は35年ぶりぐらいの再会でしたが、お部屋に入った瞬間、面影はかなり残っていて、すぐにわかりました。



当日は、医療機関や町役場の方、島民の方など沢山の方がお越しになりました。

などともお話をしましたが、医師数も看護師数も限られているなかで、薬局や薬剤師さんが、医師や看護師、また、介護の方や役場の方と連携して動くことはとても大事だと改めて感じました。それにしても、久米島はきれいな島でしたよ！（文責：狭間研至）

沖縄県の久米島に行ってきました！

大阪では少し冬らしくなってきた11月28日から30日の間、沖縄県は久米島まで行ってきました。

とはいっても、遊びにいってきたわけではありません。沖縄本島から飛行機で35分ほどのところにある人口6,600名の島では、公立久米島病院が唯一の病院で、また、保険調剤を担う薬局も2つしかありません。

人口も最盛期の半分になり、高齢化も進む久米島で、「住み慣れた場所で最後まで」という地域包括ケアシステムを完成させるためには、どうすればよいのか、勉強を兼ねて訪問しました。また、同時に、島民の方向けの講演会も企画して頂き、医師が教える薬局活用法と題してお話をしました。終了後は、島のお医者さんや歯医者さん

しおんだより 第62号 発行日：令和7年12月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

〒557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp